

	<p align="center"><b>CMB運営のビラーン民族の小学校現況と HANDS 奨学生</b> (2002-2003 学年度)</p> <p>*アトゥモロック小学校(1-6年) 116名 (うち奨学生21名) *ラムアプス小学校(1-6年) 139名 (うち奨学生21名) *キアミ分校(1-3年) 44名 (予定では、本年度奨学生13名) ほか、公立小学校に通うサムラング及びキアミ(4年以上)の奨学生が25名。 <b>合計80名が、HANDS 奨学金による授業料(公立の場合は教材費)減免を受ける予定。</b></p> <p align="center">&lt;教師&gt;</p> <p>3校で合計9名。資金と有資格教師不足で、2年生以上は一人の教師が二つの学年を受け持つ複式学級です。昨年に続き、ロウエンダとチャリタ対象の「教師再教育事業」に対して新潟県国際交流協会の助成を受けることが出来ました。二人とも昨年度の初等教育コース編入試験に失敗したため、小学校教師としての職場復帰の可能性は低くなりましたが、大人の識字教育等での貢献が期待されます。</p>
<p>HANDS 奨学生初めての board Passer (政府の教員試験合格者) ラムアプス小学校のドリ先生。 (6月/森田撮影)</p>	<p align="center">&lt;本年度カレッジ及び専門学校在学生のコース別人数&gt;</p> <p>初等教育:4名 経営学:4名 農業経営:2名 農業技術:1名 政治:1名 コンピューター・秘書:2名 助産婦(専門):2名 薬剤師補助(専門):2名 車整備(専門):3名 (うち来年3月卒業予定:4名)</p>
	<p align="center">&lt;仮住まいのノビシエート新寮で新学期開始&gt;</p> <p>スララやマーベルの寮やアパートに住んでいたハイスクール奨学生が、経費や住環境問題からジェネラルサントス市内の公立学校に編入することになり、夏休みのうちにノビシエート寮の増築が始まりました。ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成決定を受けて実現したものです。</p> <p>完成はまだ女子寮のみで、カレッジ学生を含めた55名が、この棟と旧寮で、一ベッドに二人の少々窮屈な共同生活のスタートを切りました。</p> <p>慣れぬ町の学校での緊張感から開放されて、ビラーン語、あるいはティボリ語で仲間とおしゃべりできる寮でのひとときは、特に新入生にとって貴重な癒しの時間です。残る男子寮、男女共通棟(食堂など)の竣工が待たれます。放課後や休日には学生たちも手伝っているようですから、8月中旬には完成するものと思います。</p>
<p>(女子寮内部・6月/CMB撮影)</p> <p>なお、ほぼ同じ構造で昨年完成したミアソン寮 (Yoshiko Dormitory) でも、ミアソン校(正式名 Jose D. Escobillo National High School)に通う20名(うち、奨学生は10名)が、元気に新学期を迎えました。</p>	<p align="center">&lt;ブラクール出身カレッジ奨学生&gt;</p> <p>FOTでは「あしなが奨学金」の名称で、カレッジ奨学金を支援してきました。HANDSが引き継いだ今年度も、この方式を続けて、9名の会員が、3名の奨学生を支援することになりました。以下は、現地住民組織(MTBCAI)の推薦をうけて、現地NGOのPFPが決定し、HANDSが承認した奨学生3名です。</p> <p><b>Jessie Saluni(ジェッシー君):写真省略</b> 17歳。父親はマノボ、母親はティボリ民族。MTBCAI運営の地元ハイスクールを2番で卒業。コロナダル(マーベル)のグリーンバレー・カレッジ初等教育コース1年生。</p> <p><b>Myra Sulan(マイラさん):写真上</b> 17歳。父母ともにティボリ民族。民族ダンスが得意で、ハイスクール時代は学校行事等で活躍。ジェッシーと同じ大学・コースの1年生。父親はMTBCAI代表。</p> <p><b>Dad Ungot(ダッド君):写真下</b> 19歳。父母ともにマノボ民族。昨年度は学費負担が困難になって中退。今年奨学生に選ばれて復学。上二人と同じカレッジの商学部1年生。</p>
	

本ページ奨学生関連情報源:①CMB プロジェクト運営チーム(PMT) チーフ・リッキー及びCMB 小学校長兼奨学生担当ノーマ(6月末で退職・HANDS 発足以来のよき協力者でした) ②ブラクール住民組織をサポートする現地NGO「PFP」スタッフ・ロニー